

雅やかな「やまと絵」の世界 歌と物語の絵

泉屋博古館東京（六本木） 24.06.01～07.21



古来、語り読み継がれてきた物語は、古くから絵巻物など絵画と深い関係にあり、「和歌」もまた三十一文字の世界が絵画化されたり、絵に接したことから歌が詠まれたりと「絵画」との相互の刺激から表現が高まってきた。

物語絵や歌絵の特徴のひとつは、精細な描写と典雅（整って上品な様子）な色彩、宮廷や社寺の一級の絵師が貴人の美意識に寄り添い追及いた「やまと絵」の様式を継承することであった。そして、ストーリーに流れる時間を表わすかのような「巻き物」や特別な場面を抽出してドラマティックに描き出す

「屏風」など、長大な画面に様々な表現が生まれた。

本展では、近世の人々の気分を映し出す「物語絵」と「歌絵」を所蔵するコレクションから選りすぐって紹介されているので、雅やかで華麗、時にちよつとユーモラスな世界を楽しむことができる。

尚、「やまと絵」は、日本絵画の分野のひとつで、中国風の絵画「唐絵（からえ）」に対する呼称で、平安時代以来発達した日本風絵画のことである。



《竹取物語絵巻》 第3巻（部分）



17世紀・江戸時代 左図

絵巻は天地に薄青の霞がたなびく穏やかな色調が特色で、やまと絵と漢画の技法が見だせる点などから、17世紀後半頃の狩野派の画師の作とされている。

《扇面散 農村風俗図屏風》 17世紀・江戸時代 右図

又、特集展示として「没後100年記念 黒田清輝と住友」が開催されている。